

長崎県と福建省との経済交流について

木 村 道 夫

ご紹介をいただきました長崎県庁商工課長の木村でございます。

本年は、わが長崎県と中国福建省とが友好県省の締結をして10年の節目に当たりますが、この10年を総括致しまして、本県と福建省との経済交流の実情、実態或いはこれからの展望といった様なことについてご報告を致したいと思えます。限られた時間でございますので、実態をコンパクトにまとめて、ご報告をし、議論のご参考に供したいと思えます。

本県と福建省とが友好県省の締結を致したのは、久保前知事がまだ日本が中国と国交回復を行う前に、中国の扉をたたきまして、時の中国政府の要人の方々と熱い握手を交わし、日本の国長崎県、日本の一地方都市でしかない長崎県を強くアピールし、誠意と友情を示したことが大きな契機となったのであります。もともと本県と中国福建省とは、いや福建省に限らず、中国とは古くから歴史的な繋りをもっていることは皆さん既にご承知の通りであります。

長崎の文化は、中国からいろいろな影響を受けて出来ており、長崎に今日迄続いている風俗習慣のいろんな面にその影響をみつけることができ、又、日本の歴史にも、その影響の深さを残しております。

この日中国交回復前に、日本の地方の一自治体の長が北京を訪問致しまして、そこで示した誠意

そして行動力—これが中国の高い評価を得るということになりまして日中国交10周年記念の折に、福建省との友好県省の縁組みがまとまったというのが経過であります。資料にその辺のことを少しご報告しておりますが、そういう福建省と我が長崎県とが友好県省締結を行った中から、1979年には長崎～上海間に航空路が開設されましたし、1985年には駐長崎総領事館が長崎に設置されました。現在長崎市橋口町に新装なったモダンな庁舎で領事館業務に当たっておられるが、ご案内のとおり福岡市にも中国総領事館が同時期に設置されたのであります。九州に2つの総領事館が設置されるということは、これは全く例のないことでありまして、いかに中国側からの、我が長崎に対するご好意というか、評価がいかに高かったかということの具体的な現れであろうと考えております。そういったことで、この10年間、福建省との間で友好交流を基本としながら、経済交流、或いは科学技術の交流を重ねて参りました。この間に、県内の自治体、例えば佐世保市は福建省のアモイ市との姉妹友好都市の締結を致しておりますし、他にも長崎市、諫早市等の自治体においても姉妹都市締結がされております。或いは高等学校や大学などでも姉妹校の締結がありますし、ユニークな形としては、電源開発・松島火力発電所が、大瀬戸町に設置されておりますが、この松島火力発電所をモデルとして、福建省福州市に火力発電所が設置

されましたことから、両発電所間に友好姉妹発電所の締結がされております。

なお、この福州火力発電所のプラントは、三菱長崎造船所が輸出をしたものでありますが、この様に、官民ぐるみで福建省との友好促進の輪を拡げて参っておるところであります。

そして、この友好交流の具体的実践を進める目的で1980年に「長崎・福建経済交流促進会議」という常設の協議機関を設置致しております。毎年開催されておりますが、この会議の場で提案され、実現したもののいくつかをご紹介致しますが、ひとつは、長崎～福州貨物直通航路の開設であります。1990年9月に福州からの第一船が長崎港に入ってから以来、以後定期便で8隻、臨時便が5隻入港しております。

この臨時便は、荷主の都合、貨物の集荷の状況等により臨時の運行をするものですが、これ等の船を使って積荷として運ばれるものは、福建省の特産品であります石材、合板、建築資材等を中心として、多くの貨物が入ってきております。この直通貨物航路の開設によりまして、当然ながら「輸送期間が短縮される」或いは「納期が確実になる」「輸送コストが低減される」「荷傷みがすくない」等々、期待される効果が多く挙げられる一方、実は長崎から福建省に帰る時の帰り荷がないという問題が、一つの解決されるべき大きな問題として指摘されております。

又、集荷の問題に併せて、配船回数の増加を図っていくことも、ひとつの問題として残っております。

それから技術交流についても、この交流促進会議において議論されまして、農業技術、水産技術をはじめ科学技術についての技術交流が着々と進

んでおります。農業技術関係におきましては、五ヶ年計画をもって、2回に亘り協定を更新し、長崎県側からは、技術促進として、柑きつ類の施設栽培技術、或いは肉用牛の肥育技術等を始めとして、いろいろな技術指導或いは情報の提供という様なことを重ねてきておりますし、水産技術におきましては、養殖や種苗或いは水産加工技術等の技術指導を実施するとともに、合併企業設立の可能性をさぐっているところであります。ただ、いずれに致しましても、まだまだ、こういう技術的な問題というのは、即、生産拡大につながるという迄には至っておりませんで、これからのテーマとして相互に解決をしていく、或いは研究を深めていくことが真剣に進められなければならない領域であります。更に、コンピューターの高度利用を図る為に、今年から福建省のコンピューター関係者を招へい致しまして、システム・エンジニア課程の研修を3ヶ年間、実施することとし、現在長崎ソフトウェア・センターで養成を致しております。毎年2名向こう3ヶ年間、合計6名のシステム・エンジニアを養成し、将来的には合併企業の設立、或いは独自資本による福建省への企業進出という形で、本県の経済の生産拡大、経営基盤強化に繋ってゆくものであればという期待を持っております。そのほかに造船技術等についても、指導員の派遣、研修生の受入れ、或いは語学研修においても相互に往来を致しておりますのが現状であります。この様に、友好発展を基本として、産業・科学の振興を図る為の技術交流が官民一体となって進められているところでありますが、要するに、社会体制が異なる、経済システムが違うということは、これ迄登壇された諸先生方からのご報告がなされたところでありますが、そういう実

長崎県と福建省との経済交流について

態を知るといふことも、非常に大事なことといふことで、この間、数回に亘り、経済調査団を派遣をしたり、実際に商談会を開催して取引の成立を進める為の経済ミッションも派遣を致して参りました。

そういったことで、これ迄福建省との間では、34億円を超える輸入が行われ、31億円にのぼる輸出が記録されております。輸出入のバランスは数字を見る限りにおいては良好ですが、長崎県側からの輸出品目は冷凍漁船、或いは中古漁船といった船舶及びその関係部品に限られておりますのに対し、一方、福建省からの輸入品目は、先程申しあげた石材でありますとか、或いは工芸美術品、海産物、羽毛製品など多種多様な品目にあがっております。そう言った意味で、本県の特産品をどの様にして福建市場において、商品性を高めて、展開ができるのか、——これは、我々の方からの情報の提供を充分に行っていくことが肝要であるとおもうのですが、大きな課題であると思っております。

以上の様に实际的、実務的な経済交流を進めておるところではありますが、この様な流れを更に促進する為に、交流の範囲を更に拡大する為に、昨年7月に上海に長崎貿易事務所を設置したところでもあります。

自治体単独のレベルでは、大阪府、横浜市について三番目の設置ということになります。

この上海事務所の設置によりまして、本県経済界の海外投資意欲というか、外国資本との提携による経営戦略の拡大等、海外への経済の動きというもの、かなり活発化してきたという感じを受けております。ご案内のとおり上海というところは、工業・商業の情報の集積されたところであ

り、工業総生産高においては、中国全土の14分の1を占めると言われております。中国の経済発展の中核をなす地域でありますし、現在、浦東開発という大国家プロジェクトが進められているところではありますが、この浦東開発を通じて、新上海建設計画が進められていると聞いておりますが、いずれに致しましても、大変大きな発展のポテンシャルを有する都市であります。その上海市に海外経済戦略としての拠点として事務所を設置し、県内企業の中国展開をいろいろな形でお手伝いさせて戴いております。

これ迄、本県企業の中国における企業活動は四社にすぎませんでした。この上海事務所の設置を契機として、合弁成約、或いは合弁立地を決定した企業が三社一漬物工場でありますとか繊維関係の工場でありますとか既に三社の立地が決定致しておりますし、現在20社を超える取引・引合いがあっております。上海事務所を訪れた本県関係者は既に2,500人を超え、計画経済から市場経済へ改革されようとする中国市場に、大きな期待と魅力を感じる動きにつながってきている様に思います。この一年間本県経済界の動きを見てみますと、やや消極的と感じられた海外への動き、海外資本等との合弁による生産拡大、規模拡大といった経営戦略に、大きなインパクトを上海事務所は与えたのではないかと感じているところでもあります。

この10年間の歩みというのは、我が長崎県と福建省の歴史からみれば、大変短かな、まさにまばたきの一瞬でしかない訳ですが、この10年間を通じて我々は実に多くのことを学ぶことができたと思っております。先程の何先生の基調報告で、この10年間の経済交流を総括されて期待した成果が充分に

到達されていないという主旨の報告がされましたけれども、確かに実績としては、まだまだ充分とは言えませんけれども、私達は、これは言ってみれば入口を通っただけという認識でありまして、福建省との経済システムや生活様式の相違などからこれからの問題という捉え方を致しておるところであります。

しかし、私共は、非常に多くのことを学びましたし、多くのことを体験することができました。すばらしい多くの友人を得ることも出来ました。肩を抱き合い、手を握り合ってそしてお互いの信頼と発展を確かめ合うことのできる喜びをひしひしと感じ合える様になりました。そういう気持ちのうえでの相互信頼というものは、充分できあがったものと思っておりますけれども、これ等のものを基本としながら、両県省の関係を大きな展開力と奥深い展望をもって増進させていかねばならないものと考えております。

福建省は、何先生からご報告があった様に、新しい対外開放政策をもって、大変テンポの早い経済改革が進められております。中国では最も早く対外政策が開放された地域であります。福州長楽県国際空港整備や厦門～福州市間の新幹線の整備をはじめ大きなプロジェクトが目白押しに計画されており、そういった所へ我々はこの10年間の実績を通して、これからいろいろな形で情報の交換を行い、或いは具体的なアプローチをして長崎県の経済発展の為に、何とか一緒に頑張っていきたいと考えているところであります。

特に、思いますのは、中国がつい最近韓国との間に国交を樹立させました。この国交回復によって上海～ソウル間に既に週二便の定期便が開設さ

れ、韓国釜山市とは友好都市締結の構想が詰められていると聞いております。

ご案内の通りに長崎は既に上海市と週三便の定期便を持っており、更に釜山市とも定期航空路を開設させております。従って、上海市～釜山市間に将来、航空便が開設されると、長崎～釜山～上海～長崎と三角ネット・ワークが構築され、環東海の経済交流が戦略性を持ったものとして具現化してゆく可能性を大いに有するものとして期待されるところであります。大変大きなテーマでありますし、多くの楽しみを含んだテーマだと思っております。

経済活動も、今や国際化、ボーダレス化が進み国際市場を目指した経済活動の拡大が要請をされております。本日のテーマもグローバル化ということでもありますけれども、本県の経済力を国際的に拡大していく為には、この様な戦略を大いに駆使し、展開していくことが必要であります。その具体的な例をひいてご紹介を致しますと、もっともこのケースについては、本日パネラーとしてご出席の森先生が一番お詳しく、森先生からご紹介いただくのが最適かとも存じますが、中日貿易公社という、福建省の貿易会社の出資参加を得て設立された三セク企業が大瀬戸町に設置されております。石材を中心として、ガラス製品等も輸入致しておりますが、経営も大変好調に推移を致しております。この様な形で両県省の間で、具体的な経済交流を進めてゆくことで、今後我々行政の側からのアプローチを図っていききたいと考えております。

大変、乱雑なご報告になりましたけれども、議論参考にしていただければ幸いです。

長崎県と福建省との経済交流について

〔資料〕

◎友好県省の締結

- ・締結年月日 57. 10. 16
- ・目的 人的交流、産業・経済・教育・文化の交流
長崎市・福州市の友好都市締結（55. 10. 20）に絡み、当時の久保知事が提案



日中国交正常化10周年記念にちなみ協議が進展

- ・その他の友好関係
 - 佐世保市 廈門市（58. 10. 28）
 - 諫早市 漳州市（H3. 4. 15）
 - 大村市 上海県（59. 8. 31）
 - *大瀬戸町 秦皇島市（62. 5. 28） 定期交流の協定
 - *発電(株)松島火力発電所と福州火力発電所（平成3年11月） 松島火力がモデル
 - *長崎女子商校 福州第三中学（59年）
 - *鎮西学院高校 泉州第五中学（60年）

◎経済交流促進会議の設置

設置：63. 5. 11 会議設置の覚書交換
第1回会議開催

目的：① 両県省交流の柱である経済交流の促進を一層強化友好5周年の実績と発展的關係を構築する為に

② 常設機関を設置

会議の成果

- ・農業・水産業の技術協力
 - *科学技術協力に関する協議書の締結（農林1986年 水産1985年）
- ・研修生の受入れ・派遣
- ・長崎・福州直通貨物航路の開設（元年11月協議書調印）
 - 第1船 平成2年9月 以後、年4回+臨時便
 - 主な積荷：石材・合板・建材・竹製品・綿製品等
 - 効果：① 納期が確実
 - ② 期間の短縮
 - ③ 荷傷みが減少等
- 問題点：① 帰り荷の確保
- ② 配船回数の増

◎ 技術交流の促進

1. 科学・技術に関する交流
 - ・これまでの実績
 - 農業：柑橘栽培の技術指導
 - 水産：遠洋漁業 増養殖 水産加工技術の指導
 - 建設：建設大学校へ受入れ（2年間）
2. ソフト・ウェア技術研修生の受入れ
3. 造船技術研修生の受入れ
 - ・大島造船所 馬尾造船所・漁輪造船所等から
4. 留学生・研修生の派遣、受入れ
 - *西有家町商工会「そうめんルート」調査団

◎ 経済交流促進団の派遣

- ・第2回交流促進会議で
 - ① 定期貨物航路の利用促進
 - ② 民間ベースによる具体的な経済関係の構築
 - ③ 福建省における産業技術の現状等の調査
- ・派遣の実績
 - 平成2年3月 第1回調査団派遣～第5回まで
 - 造船、機械製造、コンピュータ等を中心に派遣
- ・物産展の相互開催
 - 長崎産業展覧会の開催（福州市 昭和62年）
 - 福建美術工芸展示、海外投資セミナー開催（平成4年7月）
- ・貿易促進団の派遣（昭和55年から開始）
 1. 当初は地方の会社で商談の可能性を調査
 2. 56年団から実際の商談会開催これまでの実績（引合を含む） 輸入3,476百万円 輸出3,171百万円

◎ 上海事務所の開設

- ・設置目的：アジアニーズ 中国等との経済交流の促進を図る為に上海を拠点として輸出入商品の発掘、斡旋、現地経済情報の収集等を行う。
- ・上海への設置理由
 - ① 上海は中国最大の経済都市。工業・商業の情報が集積
 - ② 長崎から最も近い外国、歴史的なつながり
 - ③ 「浦東経済開発区」の開発など経済発展のポテンシャル
- ・設置に対する期待と実績
 - 合併企業設立の動きの加速化
 - これまでの進出実績 4社 既立地
 - 開設後の動き 進出決定3社の他20社を上回る、具体的な引合、協議が進行中